



ブルネイ・ダルサラーム大学

(ブルネイ・ダルサラーム国)

2013年度 / 学生・研究者・職員…派遣数20人、受入数26人

石油や天然ガス等資源が豊富なことでも知られる通称ブルネイに、1985年に設立された総合大学。英連邦に加盟し国民の多くが英語を話す。英国の教育システムが整備され、教育・文化のレベルも高い。医学部生は3年間の基礎教育を経て、他の英連邦国で臨床教育を行い、医師免許を取得する。



ブルネイ・ダルサラーム大学(UBD)には、香大生のための夏季医学教育コース(4~5週間)があり、英国式のProblem-Based Learningが体験できます。冬期にはUBD生が香川大学に留学し、基礎医学実習にも参加しています。

研究では、「ブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の比較研究」が、日本学術振興会の「二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究」に採択されています。運動が不足しがち、油と砂糖を多く使用した食物を好むなど、香川県同様に糖尿病や肥満を招く生活習慣の根付くブルネイ・ダルサラーム国。教育学部、農学部も加わり、日本の給食システム導入の試みや、希少糖を使用した食品開発など、総合的に問題解決を目指します。

今年で交流10周年を迎え、7月にUBDで8月には香川大学で、記念式典や記念フォーラムが行われます。UBDを通してイスラム文化圏への理解を深めることで、マレーシア、インドネシアなど周辺国へ交流が広がることも期待されています。



香川での研修報告を行うブルネイの短期留学生。



サボア大学

(フランス共和国)

2013年度 / 学生・研究者・職員…派遣数3人、受入数6人

文理幅広い8学部と19の研究所を有する、学生数13,000人の中規模の国立総合大学。1979年、ローヌアルプ地方のシャンベリー市とアヌシー市近隣の各種学校を統合して創設された。2006年に、サボア大学内の2つの理工科学院が統合し、ポリテク・アヌシー・シャンベリーとなっている。



サボア大学は、ヨーロッパ随一の透明度のあるアヌシー湖と欧州アルプスの雄大な景色を臨み、学びに最適な環境にあります。工学部が発足してすぐの2000年4月に学術国際交流協定を締結。インターンシッププログラムにより継続的に学生の交流を行い、今年度までにサボア大学から45人を受入れ、香川大学から30人を派遣しています。サボア大学でのインターンシップは、5カ月程度滞在し、研究に専念します。また、2008年にスタートした工学部協定校訪問事業の最初の訪問先選ばれ、17人の学生が訪問し現地学生などと交流を深めました。

研究では、2001年より新しいヒューマンインターフェース技術の共同開発を進めています。香川大学に留学していた修士課程、博士課程の学生も、マルチモーダル計測技術と情報統合技術の研究に参加します。

2008年からは、両研究室をインターネット回線をつなぐ、テレビ会議システムを導入し、常に対面しながら研究について発表・議論し合えます。留学生も、研究報告にこのシステムを利用しています。



インターンシップで来学中の(左から)ロバンさん、ジュスティンさん、フィリップさん。

香川大学は、学術国際交流として、16カ国・地域の53大学と「大学間協定」を、13カ国・地域の24大学と「部局間協定」を結んでおり(2014.6.1現在)、留学や研修、インターンシップ等を通じて、世界と共同研究を行ったり、各国の大学生と交流を深めたりすることができます。

なかでも本学と親交の深い、チェンマイ大学(タイ王国)、ブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ・ダルサラーム国)、サボア大学(フランス共和国)の3大学を海外教育研究拠点校に定め、留学生の交換だけでなく、共同研究に夫々の国の学生と教員が一体となって取り組むなど、活発な学術と人の交流を重ねています。

さらに、留学先で取得した単位を本学の単位として認定するほか、双方の大学から学位を取得できるダブル・ディグリー制度や共同プログラムにより学位を取得するジョイント・ディグリー制度の導入など、学生たちの海外学修を積極的に支援しています。

海外教育研究拠点3校の紹介

香川大学では、以下の3大学を海外教育研究拠点校と定め、国際的な共同研究や、学生や教職員の交換など、活発な交流を進めています。



チェンマイ大学

(タイ王国)

2013年度 / 学生・研究者・職員…派遣数65人、受入数22人

1964年、チェンマイ市にタイ北部初の高等教育機関として設立。タイの大学ランキングで教育・研究とも最高レベルの評価を受けている。20学部と3研究所を有し、学部生27,000人、大学院生7,700人が在籍。ASEANの八七大学としてカンボジア、ベトナムなど周辺国からも学生を受け入れる。



チェンマイ大学と香川大学は、農学部から交流が始まり、現在では、教育学部、工学部、医学部看護科、医学部医学科、経済学部と広がり、全学的に親交があります。今年3月にはチェンマイ大学内に香川大学連携オフィスを開設しました。農学部では、JICAのプロジェクトで多くの教員と研究者が行き来し、植物バイオテクノロジーや省農薬技術の指導・研究を実施。現在では希少糖、生物資源利用、農業経済等の共同研究に発展しています。2007年からは両大学で交互に合同シンポジウムを開催。今年9月にもチェンマイ大学で開かれ、香川大学からは、教員、学生合わせて約60名が参加します。

各学部での学生の交換留学も盛んで、2012年からは全学共通科目授業の一環として、2週間の短期留学を実施。現地の学生と共に英語で授業の受講、現地の小中学校訪問、ホームステイなどを行い、交流を深めます。また、大学院修士課程におけるダブル・ディグリー制度の導入の他、日本語の不得意な人向けの1学期間の留学受け入れ「さぬきプログラム」も今年から開始されます。



海外体験型異文化コミュニケーション授業後に一同で。

学びの舞台は、さらに広く。
世界とつながる香川大学